

第1学年のとりくみ

実践記録

1. 五感カードの活用

「感じる 考える 実感する 神代っ子」を育てるために生活科が担う役割とは・・・と考えたとき、疑問や不思議を感じる心、美しいものを美しいと感じる心を育てることではないかという結論にたどり着いた。そして、見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触るの五感を使った活動に重点を置き、その中から気づいたことを豊かに表現できる子を目標に取り組んでいこうということになった。そこで、五感カードを黒板に掲示し、常時五感を意識して過ごせるような環境に整え、生活科では特に意識して授業を進めていくように心がけている。また、本年度1年生は、弾力的学級編制の導入により普段は18名ずつ2クラスで学習しているが、生活科などの活動についてはクラスの枠を取り払い、多様な感性や考え方に触れさせるようにしてきた。

2. 「いちねんせいになったよ」

春の校庭さんぽで草木の新芽や花に触れて「やわらかいなあ」「この花のみつ、おいしいんやで」「いいにおい」「この草、名ふだみたいにくつつくよ」と様々なつぶやきを聞くことができた。カラスノエンドウの草笛はなかなか上手に鳴らすことができなかったが、この日以降休み時間になると雑草園へ行って挑戦する姿が幾度となく見られるようになった。2年生に案内してもらった校舎内の探検では、「保健室は病院みたいなにおいがしたよ」「体育館にはいろんな色のボールがたくさんあったよ」「ガイコツがいたから、理科室にはこわくて入れなかった」と、顔を上気させて語る姿が印象的であった。



春のドレス
にあうでしょ。

3. 「ぐんぐんのびろ」

本年度は、一人一鉢のアサガオ栽培のほかにも、学級園にヒマワリ、ラッカセイ、ワタ、ミニトマト、ピーマン、サツマイモを植えて世話を続けている。なかなか芽が出てこないヒマワリやワタ、水をかけてもしおれてくるサツマイモに気をもみながらも毎日草ひきや水やりに精を出し、それぞれ収穫へとたどり着くことができた。1学期の末にはミニトマトがたわわに実り、給食のときや活動の後などに数回みんなで味わうことができた。よく冷えたミニトマトをほおばりながら、「口の中でプチッとなったよ」「あまくておいしい」「のみこむのがもったいないな」と、笑顔の花が満開になった。

具体的な実践 「なつがきたよ」

1. 体験

(1) 砂遊び

「見て！見て！きれいな

水をかけたら、
どうなるかな・・・



貝がらをみつけたよ」と言って大切そうに手のひらにのせて見せてくれた。砂場で見つけたことを教室でうれしそうに話す児童に触発されて、次の休み時間には、たくさん子どもたちが砂場に集中し、その時から貝がら見つけがブームになった。砂場では、その他にも楽しいことができるということで、グループになって砂遊びをすることになった。肩まで入り込むほど深く穴を掘る子、湿った黒い砂と乾いた白い砂をうまく使ってケーキをつくる子、グループみんなで力を合わせてどこよりも高い山をつくろうとはりきる子など、思い思いに砂遊びを楽しんだ。

手のひらでぺたぺたと砂を固めたり、水をためようと両手で必死に砂をかき出したりしていた。また、「水でぬらすと高くとめるよ」「葉っぱで飾るときれいだよ」と遊びながら自然に情報交換をしている姿も見られた。中には、「池をつくったのにすぐに水がなくなっちゃった」「山の上から水をながして川にしたかったけど、どろどろになってくずれてしまったよ」と失敗もあったが、「ほら、こんなによごれたよ」と自慢げに手や顔を見せて、何よりも体中が砂まみれになったことを喜んでいるようであった。

(2) 雨の日たんけん

梅雨時になり、朝の会では、「学校へくるとちゅう、カタツムリを見つけました」「水たまりであそびました」などのお話がたくさんでできた。雨の日は、子どもたちにとって好奇心をくすぐることがたくさんある。早速、雨上がりの校庭をみんなで探検した。ぬれた木の葉っぱをさわったり、水たまりでどろだんごを作ったり晴れの日とは違った感触を楽しんでいた。フジの枝を引っ張って離しては、「シャワーみたい!」と上から落ちてくる雨のしずくを体いっぱいを受けて喜んでいる子もいた。



とっても大きな水たまりだね。

他にも「運動場がふわふわだよ」と足の裏の感触を楽しむ子、「水たまりに入ったら、ピチャピチャと音がする」と雨の日の音に関心を寄せる子もいた。

2. 気づき

(1) 校庭さんぽ



わたしの手より
大きいよ!

春にもさんぽしている校庭。夏が近づいてくると、草木や目につく生き物も変わってきた。「春と比べて変わったことはあるかな」と投げかけ、校庭さんぽが始まった。「まえは、サクラの花がさいていたのに、葉っぱになっていた」「それに、なんかまめみたいなものがついていたよ」「カラスノエンドウがあったところに、ちがう花がさいていたよ」「はっぱの色がこくなっている」など、たくさんの変化に気づくことができた。

(2) アサガオの観察

自分のアサガオに「元気にそだってね」「きれいな花がさくといいな」と願いをこめ、愛着を持って育てている。発芽してからは、日ごとに成長していく様子に

間に校庭で遊具遊びやボール遊びを楽しむだけでなく、わんぱくランドや雑草園など学校内の施設で虫探しや四つ葉探しなどをよくするようになってきた。生活科の校庭散歩では気に入った場所へ行き、「前は花が咲いていたけど、葉っぱがたくさんになってきたよ」「フジの木に実がなっていたよ」「タンポポが咲いていなかったよ」と、それぞれに見つけてきた秘密を発表することができる子も増えてきている。一方で休み時間に外に出ず、室内遊びを好む子や、身の回りの生き物や自然の変化に気づかず、日々見過ごしている子もいる。

本単元では、学校の校庭や近くの遊び場などで夏の遊びをしたり、暑さを吹き飛ばすような遊びを工夫したりと、子どもたちにとっては、楽しく意欲的に活動できる単元である。また、いろいろな友だちと一緒に遊ぶことで友だちの輪を広げるにはよい機会である。

活動に際しては、身近な自然や生き物などの春から夏への変化のようすに気づくようにはたらきかけ、子どものつぶやきに共感するように心がけたい。五感を使って自然のものに触れる楽しさを味わわせ、自然に目を向けるきっかけにしたい。また、遊びや話し合いにうまく入れない子どもには、友だち同士のコミュニケーションが活発になるように配慮しながら、自分が感じた感動や不思議をみんなに伝えたいという気持ちを大切に、伝わったときの充実感や喜びを体験させたい。

(5) 単元の目標

夏の校庭の探検などを通して、植物の様子の変化や春とは違った生き物に気づくことができる。

夏に適した遊びや、土や砂、水などを使った遊びを考え、友達と楽しく遊ぶことができる。

(6) 評価規準

関心・意欲・態度

・夏の季節を生かして、みんなと楽しく遊ぶことができる。

思考・表現

・身の回りのものを利用して遊び道具を作ったり、遊びを工夫したりすることができる。

・夏の遊びで楽しかったことや気づいたことを表現することができる。

気づき

・春から夏への季節の変化によって、自然や人々の生活の様子が変わることに気づく。

(7) 指導計画

第1次 夏の校庭を探検しよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第2次 夏らしい遊びについて考えよう。・・・・・・・・・・・・ 1時間

第3次 友達と楽しく遊ぼう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第4次 楽しかったことや気づいたことを発表しよう。・・ 3時間(本時3/3)

第5次 活動を振り返ろう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

(8) 本時の学習

目 標

夏の遊びで楽しかったことや気づいたことを、自分なりに工夫して表現することができる。

準備物

教 師・・・五感カード、実物投影機、机、台、マット

児 童・・・絵カード、生き物、ペットボトル、くつ、土、水、水そう

展 開

学習活動	支援 と評価
1．本時の学習を知る。	めあてをはっきり持って、学習に取り組めるようにする。
夏の遊びで楽しかったことや気づいたことを、みんなに伝えよう。	
2．グループごとに、みんなに伝えたいことを発表する。 ・いきもの ・みずあそび ・すなあそび 発表を聞いておたずねなどをする。	準備物がそろっているか確かめる。 思考・表現 伝えたいことを自分なりに表現できる。
3．活動を振り返る。 感想を出し合う。	発表を通して友だちのよさに気づくように声かけをする。 児童のがんばりやよかった点をほめる。

【授業を終えて】

これまでにこのような形で発表した経験がないので、最初は緊張しているようであったが、発表が進むにつれて本来の子どもらしさが出てきた。

本物のクワガタや表面がぴかぴかに磨かれたどろだんごが目の前に現れると、とたんに目が輝きだし、「どこの土で作ったの?」「どうしたらきれいなまん丸になるの?」と自然と体も引き寄せられ前のめりになった。子どもたちの関心が一つになった瞬間であり、実物ほど子どもたちの好奇心を揺さぶるものはないと改めて感じた。

また、雨の日の秘密グループの発表では、「カタツムリのからを取ったらナメクジになるのかなあ?」という疑問が出され、授業が終わってから議論が繰り返された。図鑑で調べる子、実際にナメクジとカタツムリをつかまえてきて比べる子……。後日、家で飼っているカタツムリの卵がいっぱいかえったという子が、学校にもカタツムリの赤ちゃんを持ってきてくれたおかげで、「カタツムリはからをつけて生まれてくる。ナメクジとはちがうようだね」という結論に達することができた。

同じグループの中でも絵で伝えたり身体表現したりと表現方法が違ったので、一人一人の関心や気づきも違うということがよく伝わった。それだけでなく、子どもたちなりの言葉で表現することができた。

板書には、子どもたちの発言とともに五感カードも一緒に貼っていった。そうすることで、「この子は、手でさわった感触が面白かったんだな」とか、「あの子は耳をよく使ってすごいことに気がついたんだな」というように、子どもたちにも視覚的にとらえやすく、楽しさや気づきは、すべて体で感じる五感とつながっているということが分かった。

五感カードの活用例



成果と課題

五感カードを意識させることで、生活科に限らずアンテナを張り巡らせて生活する子が増えている。日常聞かれる子どものつぶやきの中にも、五感がよく働いていることが感じられる言葉を耳にするようになってきた。

本年度は、学級園を子どもたちだけでも足を運びやすいところに割り当てたこともあって、休み時間が終わるたびに、「ラッカセイの花が咲いたよ」「ヒマワリのくきにはとげとげがあって、さわるとチクチクしたよ」「ぼくの背、おいこされちゃった」などという声が聞かれるようになった。それを聞いたほかの児童が、次のチャイムを待ちかねて、学級園へ駆け出していくことが多くなった。一人一人の気づきを、積極的に共有していけるようになってきたのである。

一方で、活動しても「楽しかった」で終わってしまい、十分な気づきが得られない子、気づいていても表現方法がわからずうまく表現できない子も少なくない。活動に入る前の課題意識の持たせ方、十分な気づきが得られるような場の設定と教師の働きかけを考えていかなければならないと思う。

特に自然とのかかわりが大きい活動については、理科につながる自然認識の基礎的事象が多く含まれているので、子どもの気づきの中でも知的な部分を意味深く受け止め、紹介することで発展させていくように心がけていきたい。



このへんは、
手ざわりがちがうよ。
さわってみ！

しっ！
かえるのなきごえが
きこえるよ。



どこに
いるのかなあ・・・